

# すいしん

発行: 住吉・住之江同和人権教育推進協議会・すいしん編集委員会  
住所: 大阪市住吉区帝塚山東 5-3-21 市民交流センターすみよし北内  
電話: 06(6674)3731

## 2012 年度住吉・住之江同推協全体研修会

### 「人権教育の未来を拓く～同和教育の原点にたちかえって～」

高松 秀憲さん（元全国同和教育研究協議会 委員長）

2012年度の住吉・住之江同和人権教育推進協議会の全体研修会に、奈良県上牧町立上牧小学校前校長、元全国人権教育研究協議会委員長 高松秀憲さんを招いてご講演いただきました。その内容の概要を紹介しておきます。

教員として仕事をしだしたとき、教員同士で本人の思い、家のこと、親のことなど、子どものことをいったい何分しゃべれるのだろうか、ということ話を合ったことがある。そのなかで学んだことは、教育とは「共育」「協育」であったが、今日子どもに気になることがあったら、今日（のうちに）家に行く「今日、行く」も大切な事だと知った。

初めて小学校の教員になったとき、Nさんという女の子を担当した。クラスの中で男子が“くさい”とNさんを避けることを憤り、男子を厳しく叱責した。先輩の教員にNさんの家に行くことを勧められ家に行ってみた。狭い家でハッピーサンダル（簡易なサンダル・・・部落の産業として家内で作られている地域もあった。）の仕事をしている親の姿があった。その母親から、Nさんの兄が、自分が部落出身であることを高校の授業で知り、たいへん動揺していることを相談されたが、何も返せない自分が情けなかった。そのことがきっかけで、親や子どもの置かれている部落差別の現実、自分はどう向き合うのかを考えるようになった。

また、ある靴づくりの職人の父親に、「おれの仕事はどう教えてくれるのん」と聞かれた。自分は、靴の職人としてまっとうな仕事をして、人に喜んでもらえて、仕事の値打ちを認めてもらえ、「それで何で差別するねん」と言いたい。自分が厳しい労働の中で作った靴が、大阪の靴屋の店頭で高い評価をされて販売されているのを見て、とても自分の誇りになっている。部落問題学習の中でそんな喜びと誇りを伝えて欲しいと言われた。

これらの出会いが自分の原点だった。振り返ってみると、同和教育の営みは自分が人になるための学びだったと思う。

かつて、部落の子どもの置かれている状況を、親の怠惰・教育への無理解と教員が書いた時代があった。しかし、その中で部落差別の現実に向き合い、自らの立つ場所はどこかと考え、子どもに向き合っていた先輩の教員がいた。そして、それは「一人の子も網の目がこぼさない」教育、「進路保障は同和教育の総和」というテーマ性を持って取り組まれてきた同和教育の実践につながっていった。それらの取り組みは部落の子どもの現実からスタート



したが、全ての子どもが、人として人間の誇りをどう持っていけるのかという普遍性を持つ教育として実践されてきた。まさに、同和教育は人権教育の基底を切り拓いてきた教育実践だった。

奈良では、「人権が尊重されない教育なんて存在するのでしょうか」と行政が書き、文部科学省も、『人権教育の指導方法等の在り方について』の中で、「人権教育は総合的な教育であり、全ての教育の基本」であると位置づけている。

上牧小学校で校長をしていたときにこんなことがあった。生活綴り方の中から生まれて来た「半分のさんま」という作文教材をクラスで読んだとき、その内容を知ったある保護者が、自分の生い立ちと自分の母親への思いを連絡帳に書いてくれた。担任と親とのこんなやり取りは子どもにも響いていく。また、部落の中にフィールドワークに行く子どもの行き先を変えてくれと言ったある母親がいた。学年の教員は部落を忌避するのかと憤ったが、実は母親が部落出身であり、子どもを差別に出会わせたくないという思いからふと出たものだった。ここにも部落差別の現実がある。

このことからわかることは、今もまた「いのち 愛 人権」が求められているということである。そして「いのち 愛 人権」を求める教育こそ、同和教育を基軸とした人権教育であり教育そのものであり、大きな説得力を持つ教育であると考えている。

高松先生には、多くの資料を用意していただきましたが、時間の都合もあり、すべてをお話いただくことはできませんでした。しかし、ご自身が取り組んでこられた具体的な事例も交えて、同和教育・人権教育の大切にすべきことを丁寧に伝えていただき、たいへん有意義な研修会になりました。

#### ◆参加者の感想◆

○実際の話や<現状の話>をたくさん聞くことができ、よい経験になりました。私も子ども達と関わる中で、たくさん笑ったり泣いたりします。ただそれで終わるのではなく、生徒のことを「よく知る」ということが、いかに大切かわかりました。今日来た話をこれから「生かしていきたい」と思います。

○小学校で実際にあった差別の現状、親の想いを知り、強く心に打たれました。その中で、人権教育の原点がわかり、大切さを実感しました。親の想いに寄り添い、子どもの状況をしっかり把握していくことを現場ですすめていきたいです。

○母親が書いてきた連絡長のお話、とても感動しました。表面化しているものばかり見るのではなく、一人ひとりの心や背景を知ることの大切さと同時に、人が人を思う気持ち一つひとつの生活や人間関係の大切さをあらためて感じました。また、親が子どもに「ムラ」の出身であることをふせておきたいという現在の問題も知ることができて良かったです。

# 2012年度 新転任研修会



5月29日（水）、第1回目の新転任研修会が行われました。この会は、同推協加盟の小中学校や保育所に新しく来られた教職員向けの研修会で、120人を超える参加がありました。

前半は、映像を使った「住吉の町づくり」についての学習でした。住吉の町がどのような願いをもとにつくられていったのか、当時の人々のくらしや町の様子を振り返りながら、説明がなされていきました。

後半は、6つのグループに分かれて、地区周辺のフィールドワークに出かけました。公共施設が中央に集まる町づくりのようす、人と人とのつながりを大切に考えた住宅のようす、障がい者や高齢者の方にやさしい町づくりのようすなど、ポイントごとに説明を受けながら地区内を見て回りました。また、少し離れた上住吉にも行き、今なお残る校区問題についても説明を聞きました。



## <参加者の声>

○（住吉東の駅には塀が建てられ）「ムラ」が見えにくいようになっていたなんて、ひどい差別だと思います。オガリ像や壁面像などを実際に見て考えさせられました。差別を受けてきた人たちの気持ちを子どもたちに考えさせるために見せてもいいかなあと思いました。



○15年前に研修を受けました。15年の歳月は長いと感じました。おおきく変わった点が時代の流れを感じます。しかし、差別をなくしていこうという気持ちは、変わらずにもち続けることが大切だと思いました。

○地域を知ることが、教育の出発点だと思います。住吉地区の歴史・現状を知ることができてよかったです。

# 南大阪民族交流会

6 月 16 日（土）、清江小学校で南大阪民族交流会が開催され、民族学級のある 25 の小中学校だけでなく、民族学級のない学校からの参加も含め、約 450 人が参加しました。西成・住吉・住之江区の小中学校に通う韓国・朝鮮に



ルーツを持つ子どもたちとその保護者が集うこの交流会も、今年で 28 回を数えます。



全体会場の体育館に集まり準備された今年の『イルム幕』に次々と自分のイルム（名前）をハングルで書き込んでいきました。そして、10時。いよいよ民族交流会のスタートです。はじめの全体会では、ソンセンニムによる『プンムル（楽器演奏）』がありました。そして、10・20・40周年の玉出小・住吉中・長橋小の民族学級のチング（友だち）からアピールがありました。その後、各学年と保護者に分かれて、今年のテーマ“工作”を行いました。小学校低学年は『ユンノリ（すごろく）のユッカラク（棒）』、中学年は『ハンチ（韓紙）の筆立て』、高学年は『プンギョン（風鈴）付きイルムパン（名前の板）』、中学生は『スタンドグラスイルムパン』、そして保護者は『チュモニ（巾着袋）』の製作にそれぞれ取り組みました。同じ学校から参加したチングの他、1年ぶりに再会したり、この日初めて出会ったりしたチングとともに活動する中で、会話を交わし、交流を深める時間となりました。

昼食後、民族衣装に着替え、終わりの全体会を行いました。低・中・高学年、中学生が順に作品を見せ、それぞれアピールをしました。そして、保護者会のアリランの発表とアボチから交流会の意義についてアピールがありました。最後に昨年までのたくさんの「イルム幕」が所狭しとかざられている中で、今年の「イルム幕」が披露され、「タシ マンナチャ（また会いましょう!）」と、交流を深めた一日を締めくくりました。



## 学校の窓 大領小学校

# 「大領祭～みんな笑顔でもりあげよう大領祭～」

本校では、毎年5月に大領祭を行っています。

目的は①みんなで53回目の創立記念日をお祝いする。

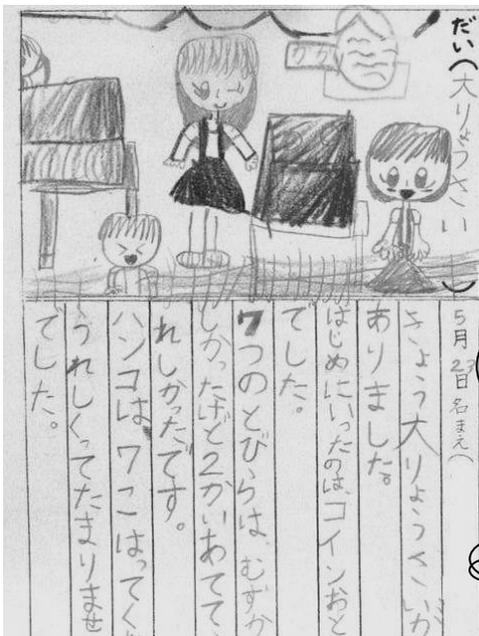
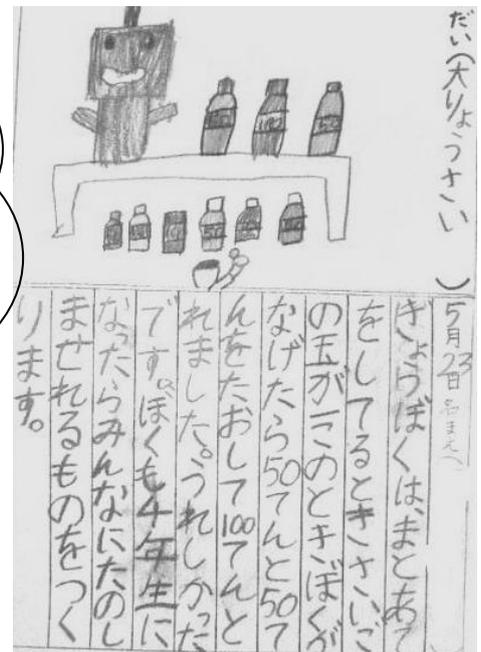
②たくさんの学年の人とふれあう。

児童会が中心になり、各クラスのお店や場所を決めたり、司会などの役割を分担したりします。また、全学年から意見を持ちより、その年のスローガンを決めていきます。

今年のスローガンは「みんな笑顔でもりあげよう大領祭」になりました。

### 子どもたちの感想から

わたしのグループの店は「まとあて」です。  
 みんなで手分けしてペットボトルやダンボール  
 を持ってきて準備をしました。ダンボールは  
 お店にもらいに行きました。学校に持っていくの  
 が大変だったけど、大領祭でみんなが楽しめるよ  
 うにがんばりました。当日はあまり人が  
 来てくれなくて残念でしたが、準備を  
 楽しくがんばれてよかったです。



スタンプをおした後、必ず「ありがとう」と  
 という言葉が返ってきて、みんなが楽しんでくれ  
 たらいいなと思っていました。帰る人が「あー  
 楽しかった」  
 と帰っていくのがうれしかったです。

「みんなに楽しんでほしい」「お姉ちゃん、お兄ちゃんみたいになりたいな」  
 そんな思いが、子どもたちの成長につながります。そして、楽しいふれあいがいっぱい、思  
 い出に残る一日になりました。

**学校の窓 大領中学校**

**「キャリア教育～職業講話・職場体験学習～」に取り組んで**

キャリア教育の一環として大領中学校では、1年生で職業講話、2年生で職場体験学習を実施しています。これらの体験学習が将来の自分の進路について、真剣に考える良いきっかけになることでしょう。

**1 年生 職業講話**

実際にその職業に就いている方々を講師に招いていろいろなお話を聞かせていただきました。その職業に就くにはどんな資格や勉強が必要なのか、また、その職業の苦勞や喜びとは…etc

司会や会場の準備、講師案内など、子どもたちが係を決めて自らで運営し、講師の方々には、たくさんの質問に丁寧に答えていただきました。緊張しながらも大変良い経験になったことと思います。また、後日、各職業講話の内容の発表会も実施し聞き取った中身の交流をしました。

	来ていただいた職業
1	運転士
2	CA(キャビンアテンダント)
3	消防士
4	看護師
5	美容師
6	スポーツインストラクター
7	幼稚園教諭
8	フランス料理・シェフ



**2 年生 職場体験学習**

33 の事業所で2日間に渡って実施することができました。実施にあたり、協力していただいた各事業所の皆さまには本当にお世話になりました。社会に出て働くということの厳しさや、楽しさを体験することができ、将来の進路を見いだすための貴重な経験となりました。

**～子どもたちの感想より～**

私が体験した仕事の内容は、主に接客・掃除・デザート作りです。この3つをやる際に教えて頂きましたが、それより大切だと教えて頂いたことは、普段学校生活において先生方に言われていることや、親に言われていることがほとんどでした。特にあいさつの大切さは何度も言われています。あいさつに限らず、何度も言われていることはそれだけ大事だということに改めて思いました。職業によって必要とされる技術は異なりますが、それとは別に今学校などで言われていることは、どの職業に就いても同じなんだろうな、と思いました。今回体験させて頂いた接客は、とてもやりがいのある仕事でした。将来どの仕事をやるにしても、今回の体験で思ったことは、忘れないようにしようと思いました。



# すみほ せん太郎くん

また・みえ —125—

## 料理番組



## 2学期のおもな活動

9月 5日 (水) 新転任研修会パートⅡ

9月11日 (火) 専門部会

10月 3日 (水) 第2回役員研修会

10月 9日 (火) 専門部会

11月10日 (土) 第20回住吉・住之江

じんけんのつどい

11月13日 (火) 専門部会

### 「全国水平社90年の運動から学ぶ」

#### 連続講座

8月26日 (日) 午後1時～3時

テーマ：「戦後の部落解放運動～再建から1980年まで」

講師：渡辺俊雄（全国部落史研究会運営委員）

9月23日 (日) 午後1時～3時

テーマ：「戦後の部落解放運動～1980年代から今日まで」

講師：谷元昭信（前・部落解放同盟中央本部書記次長）

10月28日 (日) 午後1時～3時

テーマ：「これからの部落解放運動」

講師：赤井隆史（部落解放同盟大阪府連合会書記長）

